

549

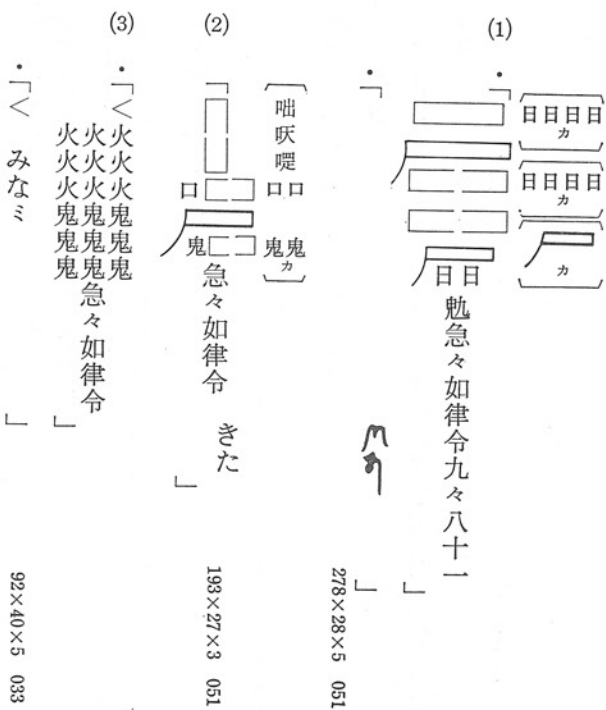
- 6 遺跡の年代 一二世紀後期～一五世紀初期

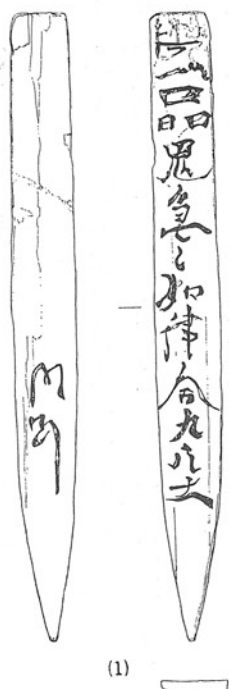
約五〇m、小町通り入口付近と横須賀線の線路との間に位置する。



本調査は、ビル建設にとま  
なう事前調査として、調査  
団を組織し、発掘調査を行  
った。調査面積は $800\text{ m}^2$ 。  
調査により、三期にわたる  
地業面（生活面）を確認した。  
検出された遺構は、方形堅  
穴・掘立柱建物、全面にわ  
たる土壙・溝・井戸などで

8 木簡の釈文・内容

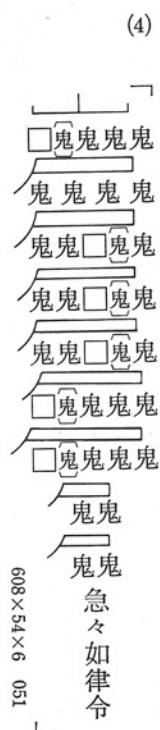




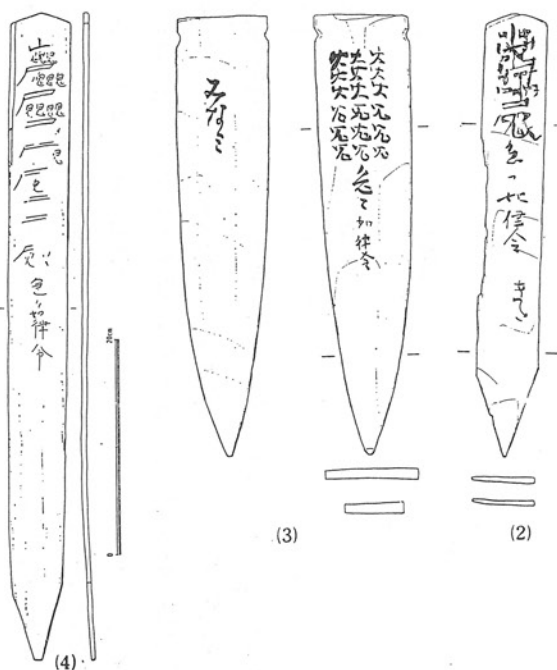
(1)

(1)は覆土、(2)(3)は井戸、(4)は土壙から出土した。これら呪符が出土している第二面は、一三世紀末～一四世紀初めと考えられる。四本の呪符は、ほぼ同時期に廃棄されたと考えられる。  
(2)の「きた」、(3)の「みなミ」は表記箇所は異っている(表・裏)が、方位を表わすものと考えられる。  
木簡の釈文については、奈良大学教授の水野正好氏、鶴見大学教授の大三輪龍彦氏に御教示いただいた。

(手塚直樹・田畑佐和子)



(4)



(3)

(2)

(4)